

ときめき人

Tokimeki bito



「豊里の人間国宝」 第1号に認定 人を愛し 人に愛され

豊里町・西二ツ屋

佐藤 登さん

さとう・のぼる
1937(昭和2)年生まれ 89歳

Profile

結婚後は、専業農家を営み、町農業委員、農協実行組合長や町老人クラブ会長など、各種団体の役職を数多く務めた。手先が器用で、ミニチュア藁におだけではなく、日曜大工なども得意。座右の銘は自身が考えた「雑草は踏まれて枯れるが、夜露の情けで生き返る」



豊里公民館に展示されているミニチュア「藁にお」

「公民館から頼まれて、べっこい『藁にお』こせだ(作った)だけなんだけどな。んでも、べっこいのかせんのは、結構骨折れるぞ」と笑顔を見せる。

豊里公民館・豊里コミュニティ推進協議会は、豊里町内に在住し、珍しい特技を持つ人、地域貢献活動をしている人や、周囲から感謝、尊敬されている人など、町の宝となるような人物を「豊里の人間国宝」として認定。この第1号に佐藤さんが選ばれた。ミニチュア藁におを作るなど、手先の器用さはもちろん、その人柄も認定の決め手となった。

佐々木耕悦館長は「『登さんなら』と全会一致でした」と認定時を振り返る。「明るくて前向きで、人の悪口を言わない。自慢話もするけれど、そこに嫌味がない。町内で登さんのことを知らない人

はもぐり」と佐々木館長は佐藤さんを評する。

いつも元気で、グラウンドゴルフ、パークゴルフとゲートボールを週3日以上プレーし、地域行事への参加や趣味の畑づくりなど、休む間もなく活動している。佐藤さんは「趣味がねえと、ぼけるから」というものの、米寿を超えてこれだけ元気な人はそういない。

佐藤さんは、人付き合いが大好き。「取れた野菜は売らない。みんなさ『けでやんだ』(あげる)。けでやれば、そのうちお返しさ来るべ。したら、そこでまた楽しく話しできっぺ」が佐藤さん流の人付き合い術。「いつまで生きられるが分がんねえがら楽しく暮らすべ」。今日も町中で、楽しくおしゃべりする佐藤さんがいる。

編集後記

▼常に前向きでありたい。今号の取材対象者はみんな、前向きで感謝の気持ちを持っていた。「何もない荒野にだって、花を咲かせらわ」「一輪の花にだって、ありがとうって思うの」。福原美穂のCHANCEという曲の一節。新年、前を向いて感謝の気持ち忘れず頑張りたい。(及川)

▼先日、消防団出初式に取材に行ってきました。消防団員による観閲行進や一斉放水など肌寒い中行われました。日々地域の安心と安全を守るために活動いただいていることに感謝しながら、乾燥しているこの時期、火災に気をつけたいですね。(千葉)

▼平成29年に入り、早いもので1カ月が過ぎようとしています。私は昨年、感染性胃腸炎にかかりました。病気になる仕事を休むこともあります。まだまだ、インフルエンザやノロウイルスが流行する時期。手洗いやうがいなどで予防し、周りに迷惑をかけない一年にしたいです。(田代)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomacity.mail-dpt.jp/>

